

心と体にやさしい内視鏡検査・治療のエキスパート  
早期発見、早期治療で病を防ぐ地域のかかりつけ医



「内視鏡検査は決して苦しい、しんどい検査ではないことを、もっと広くアピールしていかなければと思っています」

医療法人 陽恵会 やすもとクリニック  
理事長・院長 安本 真悟



近年、内視鏡を用いた検査、治療が著しい進展を見せている。新しい機器の開発・改良と検査や治療にあたる医師の技術の向上によって、痛みを伴わない楽な検査、治療法として内視鏡検査・治療が長足の進歩を遂げてきた。しかし一方では、「検査を受けている時間がない」「胃や大腸の内視鏡検査はつらい」など、依然として検査につきまとうマイナスイメージは、あまり変わっていないようだ。

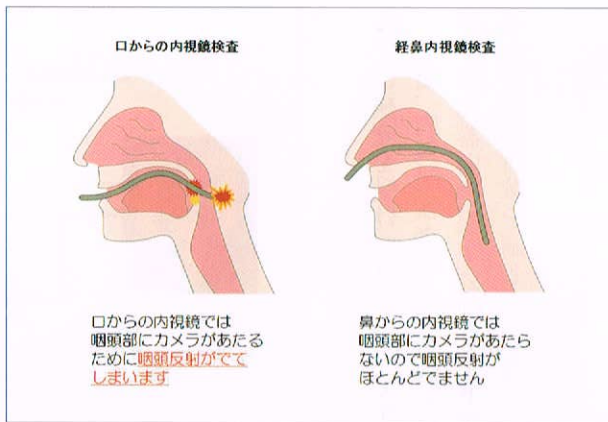
日本では、胃、大腸、直腸、肝臓の消化器のガンによる死亡者が多く、とくに大腸ガンの死亡率は男女ともに上位を占め、現在も増加傾向にある。ガンの発生件数でいえば今世紀の早い段階で胃ガンを上回り、日本人に一番多いガンは大腸ガン」となることが予想されている。ガン疾患全体に言えることだが、自覚症状が現れる前の検査が最も重要で、早期発見、早期治療がなによりも求められているのだ。

こうした時代背景の中で平成19年11月にクリニックを開設以来、「苦痛のない正確な内視鏡検査」を心がけて、内視鏡検査のエキスパートとして地域医療に力を尽くしているのが、やすもとクリニックの安本真悟院長である。安本院長は「大腸ガンの名医」として雑誌で紹介されたこともある内視鏡のスペシャリストだ。親しみやすく頼れる内科医、内視鏡医と評判の安本院長の下に、信頼を寄せる患者が遠方からも足を運ぶ。



検査技術の進歩でさらに進む「患者にやさしい経鼻内視鏡検査」  
経鼻内視鏡のメリットをもっと知って欲しい

「経鼻内視鏡は、苦痛が少ないことが評価されて急速に普及している検査で、最近では技術開発



身体に優しい内視鏡検査で地域医療に貢献



## 大腸ポリープや大腸ガンの早期発見に威力を発揮 検査技術の進歩でさらに広がる早期検査のメリット

患者の苦痛が少ないだけでなく、機器そのものの技術進歩で観察精度が高くなった経鼻内視鏡は、これまでの内視鏡とは違う新しいタイプの内視鏡といえることができる。一昔前までは、「胃カメラ」と聞いただけで内視鏡検査に嫌悪感を持ったものだが、経鼻内視鏡の普及で、内視鏡検査は国民の身近な検査になりつつある。これによって気分的に憂鬱感を持つことなく定期的に進んで検査を受けることができ、病変の早期発見に繋がって疾病予防に大きなプラスとなるのだ。

が進んで検査の質も著しく向上しています」と安本院長は最近の内視鏡を語る。経鼻内視鏡は従来の内視鏡より小さく、格段に細くなっているため、口からだけでなく鼻からも挿入することができる。

このため、これまでの内視鏡検査では付き物だった不快な嘔吐感や苦痛が少なく検査を受けることができる。経鼻内視鏡で嘔吐感がないことを安本院長は次のように説明する。

「風邪を引いて病院で診てもらった時に、舌の奥をへらみたいなもので押されて『オエッ』となりそうな経験をしたことがあると思います。これを咽頭反射と言います。口から内視鏡を入れる場合は、多少なりともこうした咽頭反射が起こりますが、鼻から入れる場合は内視鏡が舌の根元に触れないので、ほとんど吐き気をもよおすことなく検査を受けることができます」

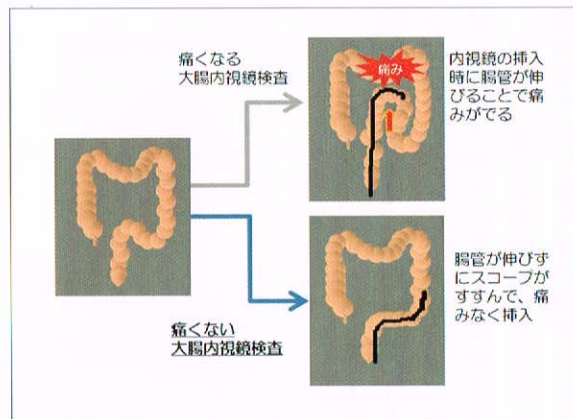
やすもとクリニックは、患者に苦痛なくより正確に内視鏡検査が受けられるよう最新の内視鏡設備を導入し、積極的に経鼻内視鏡での胃カメラを行うようにしている。実際、同クリニックでは検査をうけたほとんどの人が次回の検査も経鼻内視鏡を希望している。

内視鏡検査での鎮静剤、鎮痛剤の使用も適時に応じて行っており、リクライニングシートなどを備えて検査後に患者がリラックスできるように配慮がなされている。

「口から入れる経口内視鏡が直径約10mmなのに対して、鼻から入れる経鼻内視鏡は直径5・9mmの細くてしなやかなスコープです。細かい画質が悪いのでは？との意見もありましたが、最近の経鼻内視鏡による観察性能は目覚ましく向上し、画質も格段に明るく見やすくなって、通常の口からの内視鏡と遜色ない画像が得られています。また、病気を内視鏡で発見した時に、内視鏡が細いので細胞をとって病理検査をすることができないと、勘違いされている方もいますが、実際は口からの内視鏡検査と同様に細胞をとって病理検査を行うこともできます」と安本院長は経鼻内視鏡の利点を強調する。

やすもとクリニックでは、大腸内視鏡検査や日帰りの大腸ポリープ切除術もおこなっており、病気の早期発見、初期治療に努めて、病状の悪化を防ぐために精力的に取り組んでいる。大腸がんは進行しなければ自覚症状がない病気である。検便検査で血便などの異常があったり、便秘が続くという場合は早い目に検査が必要だ。

最近、食文化の欧米化とともに日本でも大腸がんになる人が増加していること、また大腸内視鏡検査での早期発見の重要性を安本院長は指摘する。



痛くない大腸内視鏡検査の仕組み

「以前は女性のガンでの死亡は乳ガンが最も多かったのですが、今では最も多いのが大腸ガンです。大腸ガンは腺腫というポリープからできることがほとんどで、大腸ポリープや早期の大腸ガンは内視鏡的に切除すれば、ほとんど治癒できます。大腸ポリープや大腸ガンの早期発見には大腸内視鏡検査が適任なのです。大腸内視鏡検査は、つらく、痛い検査とされています。しかし、ほとんどの方はそれほど苦痛を伴う検査ではありません。大腸内視鏡時の痛みとは、腸が曲がっているところを内視鏡スコープで押すと、腸管が伸展して痛みを感じます。しかし、曲がっているところをスコープを巧みに操作することで腸管を伸ばさずに挿入できれば、ほとんど痛みを感じずに検査ができます。大腸内視鏡のエキスパートなら、ある程度このような挿入法を身につけており、ほとんどの方は安心して検査を受けることができます。だから、検査が必要な時は怖がらずに検査を受けてほしいのです」と力を込める。

また、内視鏡検査をうける時の感染症対策が心配な方もいるだろうが、やすもとクリニックでは、日本消化器内視鏡学会のガイドラインに基づいた自動洗浄機による一人ひとりの洗浄を徹底するなど万全の対策を講じている。



## 自覚症状のない生活習慣病予防はまず正確な検査から 幅広い診療・検査で地域住民の健康をサポート

やすもとクリニックでは内視鏡検査をはじめ、胃腸や肝胆膵疾患の消化器疾患を含む一般内科として高血圧・糖尿病・高脂血症などの生活習慣病、感冒、アレルギー、不眠等の疾患など幅広い診療を行っている。腹部超音波検査、レントゲン検査ができる最新の機器を完備している。また、内視鏡検査、超音波検査、頸動脈超音波検査ができる最新の機器を完備している。画像データと比較することで詳細でわかりやすい診療と確実な診断を進めている。

「腹部超音波検査で調べる臓器は多岐にわたりますが、胆石、早期肝臓ガンの発見に効果的です。胆石は目立った症状が見られず、検診によって初めて認められる場合が多く、保有者の約10%は生涯全く無症状で経過するといわれています。また、B型・C型肝炎ウイルスが原因の慢性肝炎は、肝硬変や肝臓ガンに移行する確率が高いので、定期的な検査で早期に病変をとらえることが大事です」と安本院長は早期検査の重要性を強調する。

日本人の三大死因はガン、脳卒中、心臓病といわれ、ガン以外の二大疾患を誘発する大きな原因となっている高血圧、高脂血症、高血糖（糖尿病）患者が増えている。これらは加齢や遺伝的な要因だけではなく、不適切な食生活、運動不足、過度の飲酒・喫煙、ストレスといった「生活習慣のゆがみ」が深く関与していることから一般的に「生活習慣病」と呼ばれている。

生活習慣病予防のため日常生活の生活改善の重要性が広く喧伝されている。とはいっても、自分の身体状況を具体的に把握することなくして改善の努力はおぼつかない。定期検診の重要性が指摘される所以だが、それだけに早期発見による的確な診断で改善の方向性を指し示す、安本院長



苦痛のないより正確な内視鏡検査が評判のクリニック

の様な「地域のかかりつけ医」の存在が重要性を増しているのだ。

**病気の予防につながる内視鏡に  
強い関心を持ったのが始まり  
内視鏡の患者は京阪神の広い  
エリアから訪れる**

安本院長は平成7年に大阪医科大学を卒業し、大阪医科大学第二内科に入局。以来医師として20年近いキャリアを積み、その間勤務医として様々な病院で内視鏡の診断・治療の腕を磨いてきた。平成19年11月に大阪府枚方市の京阪樟葉駅近くに「やすもとクリニック」を開設した安本院長だが、医師を志した理由をこう語る。

「医師の道を志したのは、医学部に進んだ姉の影響を受けたからです。そして医学部で学ぶうちに、病氣予防に繋がる内視鏡検査に興味を持つようになりました」

開業の地を京阪沿線の樟葉駅前にしたのは、内視鏡検査を専門にした場合、一般の内科クリニックと違って訪れる患者の外来エリアが広範囲に及ぶ。このため京都や大阪、神戸からも交通の便利な場所をとという考えによる。開院以来、苦痛のないより正確な内視鏡検査が評判を呼び、やす

もとクリニックには京阪神を中心に遠来を含めて多くの患者が訪れる。

「月曜日から土曜日までの早朝8時から9時と、月火・木金の午後1時から4時に内視鏡検査を行っています。検査の順番を待っていた患者さんを思うと心苦しいです」と話す安本院長。胃潰瘍や十二指腸潰瘍はストレスが原因の病氣とよくいわれるが、治りにくい潰瘍や再発する潰瘍にはヘリコバクター・ピロリ菌という細菌が関与していることが多く、ピロリ菌のチェックが必要だと安本院長はアドバイスする。ピロリ菌の感染率は全国民の半数が感染していると推測されており、先進国の中で日本は際立って高い感染率だ。

「ピロリ菌の検査は、内視鏡で潰瘍や慢性胃炎の有無を確認した後、その場で胃の組織をとる場合と後で息を吐く検査をするのが一般的です。ピロリ菌がある場合は除菌療法が効果的で、胃酸を抑える薬と2種類の抗生剤を1週間内服するだけで、80〜90%除菌に成功します。まれに薬のせいで軟便や下痢になったり、発疹をきたすことがありますが、ほとんどの方は問題ありません」と説明する。



**今や内視鏡検査は決して苦しいしんどい検査ではない  
「身体に優しい検査」で早期発見して病氣予防を**

近年増加傾向にある逆流性食道炎や、O-157などの感染性腸炎。また厚生労働省の特定疾患である潰瘍性大腸炎やクローン病などの診断にも内視鏡検査が活躍している。

やすもとクリニック開院以来、地域住民との結びつきを大切に地域社会に貢献してきた安本院長だが、今後の夢をこう語ってくれた。

## PROFILE

### 安本 真悟 (やすもと・しんご)

昭和42年12月生まれ。平成7年大阪医科大学卒業。同年大阪医科大学第二内科(消化器・血液内科)入局。医仁会武田総合病院消化器内科、藤井会石切生喜病院消化器内科の勤務医を経て平成16年大阪医科大学附属病院第二内科助手。同17年大阪医科大学附属病院消化器内視鏡センター助手。同18年医学博士号取得。同年錦綉会阪和住吉総合病院内科勤務を経て同19年11月やすもとクリニック設立。

#### 所属・活動

日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医(近畿支部評議員)、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医(近畿支部評議員)、日本消化管学会、日本大腸肛門病学会

## INFORMATION

### 医療法人 陽恵会 やすもとクリニック

**所在地** 〒573-1121 大阪府枚方市楠葉花園町11番3-202  
 ファインシティくずはマンション  
 京阪メディケアモール2階  
 TEL 072-850-7372

- アクセス**
- 京阪樟葉駅降りて徒歩3分。
  - 駐車場は京阪メディケアモール駐車場を利用してください。



**設立** 平成19年11月

**診療内容** 内視鏡検査、胃腸や肝胆膵疾患の消化器疾患、  
 高血圧・糖尿病・高脂血症など生活習慣病、感冒、アレルギー、  
 不眠などの疾患

**診療時間** 8:00-9:00 (内視鏡:月-土)  
 9:00-12:00 (月-土)  
 13:00-16:00 (内視鏡:月・火・木・金)  
 16:30-19:00 (月・火・木・金)  
 休診(日・祝日)

「私がクリニックを立ち上げたのは、内視鏡検査による病変の早期発見、早期治療に力を尽くしたいと思ったからです。まだまだ内視鏡検査はつらくていやだ、と避けている方が多くいます。内視鏡検査は決して苦しい、しんどい検査ではないことをもっと広くアピールしていかなければと思っています」と安本院長は熱く語る。

「とくにガンなどで発見が遅れて手遅れにならないように、早期発見のためこれまで進めてきた『身体に優しい検査』をさらに発展させていければと思っています」と今後の抱負を語る。日本消化器病学会総会を始めとしたシンポジウムなどで多くの研究発表を行い、国内外の医学専門誌への論文執筆など多方面で活躍中の安本院長。消化器内科、内視鏡検査・治療のエキスパートとして地域医療の発展、国民の健康増進と疾病予防に大きな期待が寄せられている。